

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	23526
事業名	子育て援助活動支援費					
評価担当課	所属名	子)子育て支援 子育て支援課				
	課長名	江積 淳一	担当者名	西山 滉一	電話番号	011-211-2988
施策名	主	子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ● その他				
	目的	短期	2021年度末までに依頼・両方会員登録者数15,000人を目指す			
		長期	保育サービスを希望する家庭が増える中で、保育所等の送迎や病児等の預かり先の確保を必要としている家庭の様々なニーズに応じていく。			
	取組内容	①子育て援助活動支援事業は子育てと仕事の両立を支援するため、支援を受けたい人(依頼会員)と援助したい人(提供会員)とにより会員組織をつくり、地域で子育て家庭を支援する仕組み。日常的な預かりの「さっぽろ子育てサポートセンター」と緊急時や病児・病後児預かりの「札幌市こども緊急サポートネットワーク」の2つの事業を実施 ②子育てと仕事の両立を支援するため、病児・病後児預かりの利用料金を補助。3時間以上利用した場合、30分あたり350円を補助				
実施結果	依頼会員 15,949人(子サポ7,542人、緊サポ8,407人)、提供会員902人(子サポ566人、緊サポ366人)、両方会員 109人(子サポ103人、緊サポ6人) 利用件数 5,752件(子サポ5,319件、緊サポ433件) 病児預かり補助金利用件数 53件 臨時休業時補助金利用件数 19件					
事業実施における工夫点	子育て家庭の様々な預かりニーズに応じていくために報告や検討を行うための体制を整えている。					
対象者	小学6年生以下子どもを育てている方	開始	平成13年度	終了	0年度	
関連法令・条例・要綱等	子育てサポートセンター事業実施要綱、こども緊急サポートネットワーク事業実施要綱、病児・病後児預かり利用料補助金交付要綱、厚労省：子ども・子育て支援交付金交付要綱					
他都市の状況	931か所(令和元年度厚生労働省調査)で実施。 政令市では、本部を1か所、区に支部の設置が可					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	59,698	65,000	60,556	65,000	
うち特定財源	17,506	23,372	20,992	23,612	
人工	0.6	0.5	0.5	0.5	
人件費	4,320	3,600	3,600	3,600	
計(事業費+人件費)	64,018	68,600	64,156	68,600	
事業費の内訳	令和3年度決算	事業費:60,556千円 内訳 会計年度職員費:29,934千円 子サポ事業:14,124千円、緊サポ事業:15,400千円 病児預かり補助金:93千円 臨時休業時補助金:188千円			
	令和4年度予算	事業費:65,000千円 内訳 会計年度職員費:29,776千円 子サポ事業:14,578千円、緊サポ事業:15,466千円 補助金:3,548千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	会員数		
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
	16,044	16,044	16,058	16,058
活動指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
成果指標1	指標名	利用件数		
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
	6,744	11,970	5,752	11,970
成果指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由		
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	一時預かりのニーズの多様化に合わせた、地域で子育てを支え合う環境づくりが進んでいる。依頼・両方会員数も着実に増加している。		
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	0歳から小学校6年生までの預かりを行っており、利用者のニーズは今後も多様化するため、現在の事業規模を維持拡大するため引き続き提供会員増にむけた取組を行う。		
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	本事業に係る支出は主に運營業務委託団体の(福)札幌市社会福祉協議会、NPO法人北海道子育て支援ワーカーズへの委託料であるが、両事業においては、依頼会員・提供会員の新規募集や既存会員の管理、会員間のマッチングやコーディネート、提供会員への研修など、市の事業として行うための事務局機能を担っている。本来、職員が行うべき事務局機能を社協等が担うことでコストの低減や効率性は図られている。		
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	新型コロナの影響により、病児預かりの一部休止を行っているため、依頼会員のニーズに応えられなかった部分はあるが、感染症対策のために臨時休校した際の預かりに対し、利用料の一部を補助する制度を継続した。		
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外 市民参加結果への対応 <input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映			
今後の改善点	新型コロナの影響により、一部病児預かりの休止を行っているため、補助金給付は想定より少なくなっているが、今後の情勢に合わせきめ細やかな対応を行う。			
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
今年度取り組んだ見直し内容	こそだてインフォメーションでの新規会員登録窓口を全区に設置し、会員数が増加している。		見直し効果額 (前年度)	0 千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
評価の理由	依頼・両方会員数が着実に増加している。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	○ 改善 ● 現状維持 ○ 休止・廃止 引き続き子育て家庭のニーズに柔軟に対応を行う。		
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 引き続きファミリー・サポート・センター事業を実施し、サービスの維持拡大のため提供会員の確保を行う。		見直し効果額 0 千円